高年者における冠危険因子の管理

所属機関　聖マリアンナ医科大学
研究者名　村山　正博

2001（平成 13）年度以前の助成研究者については、研究報告書全文に関する公開の許諾について明確になっていなかったため、助成研究者の皆様に対し、大学等への配布及び当財団ウェブサイトでの公開について許諾をお願い致しましたが、許諾が得られなかったため、当財団が助成対象とした研究の目的（または一部概要）のみ下記に記載し、研究報告書については非公開とさせて頂きます。

（研究の目的）

近年、本邦において、心筋梗塞、心臓性突然死などの心事故が増加しておりその対策として冠危険因子管理の必要性が広く認識されている。しかし、その多くは欧米の調査や成績を元にしたもので、特に心事故発生の引き金となるストレスや疲労については、本邦独自の社会環境や勤労条件からその機序を推定し、対策を立てる必要がある。

本研究は、冠危険因子の中、慢性効果として心事故に働く高血圧、高脂血症糖尿病などと、急性的トリガーとなり得るストレス、疲労などに分け、特に後者の関連機序を疫学的実態調査、実験的過労状態のストレスホルモン状態、循環状態から解明することを目的としたものである。